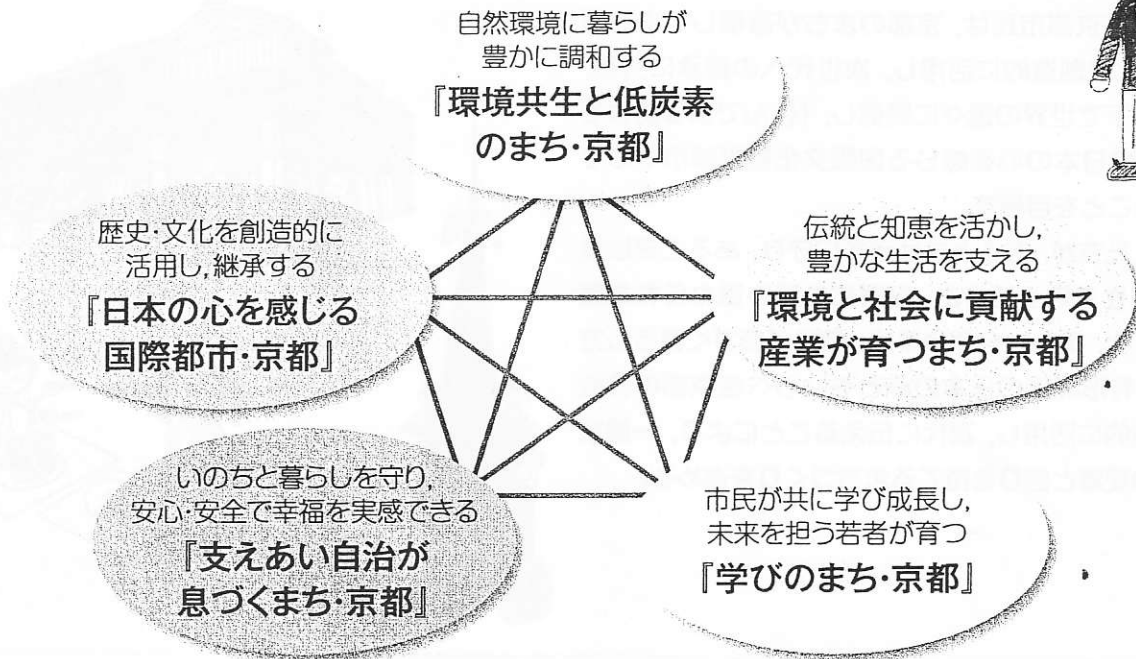


京都の 未来像

審議会では、10年後にめざすべき京都の姿として、5つの未来像を設定しました。これらは互いに深く関連しながら、これからの京都市の都市経営の指針となるべきものです。



自然環境に暮らしが豊かに調和する

『環境共生と低炭素*のまち・京都』

私たち京都市民は、将来世代のいのちと安全を守るためにも、長期的(2050年まで)な未来を視野に入れ、その最初の10年間において、最先端の技術を用いた環境産業が若者の雇用を生み、公共交通を優先するまちづくりがお年寄りの暮らしやすさを高め、三山の森とまちなかの緑がすべての市民にうるおいと癒しを与えるといった、低炭素のまちづくりに暮らしが豊かに調和したまちを目指す。

京都人の美意識である「もったいない」「始末」の精神を尊び共有することで、交通・まちづくり、ものづくり、なりわい、住まいと暮らしのあらゆる場において、環境共生・低炭素型の都市づくりを市民ぐるみで実践し、国内外における地球温暖化対策を牽引する。

*低炭素：温室効果ガスの排出が少ない

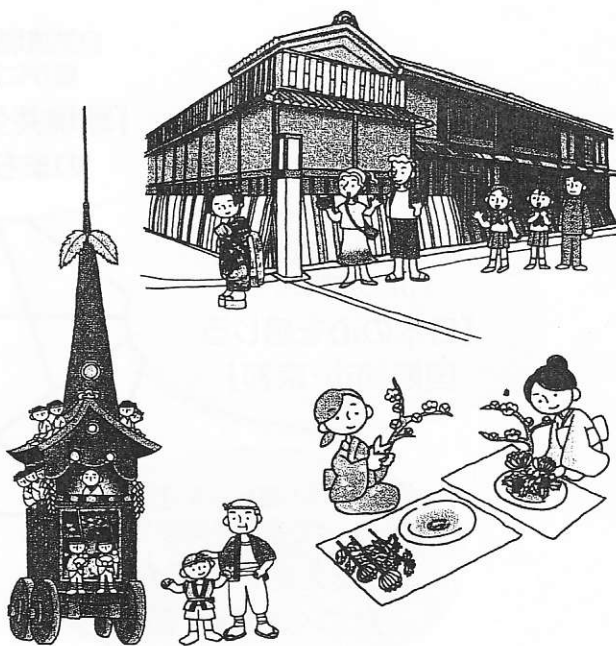


歴史・文化を創造的に活用し、継承する

『日本の心を感じる国際都市・京都』

私たち京都市民は、京都のまちが蓄積してきた歴史・文化を創造的に活用し、次世代への継承に努め、平和の下で世界の国々に発信し、「住んでよし訪ねてよし」の日本の心を感じる国際文化観光都市であり続けることを目指す。

先人たちが、あるときは頑なに守り、あるときは進取の気性で培ってきた、幾重にも積み重ねられた歴史と文化、美しい自然や景観、伝統が息づく暮らし方など、有形無形の日本の心ともいべき京都の特性を創造的に活用し、次代に伝えることにより、一層京都への愛着と誇りを持てるまちづくりを進める。



いのちと暮らしを守り、安心・安全で幸福を実感できる

『支えあい自治が息づくまち・京都』

私たち京都市民は、子どもからお年寄りまで、すべての人々のいのちと暮らしが守られ、互いに尊厳を認め合い、支え合うとともに、誰にも居場所があり、人のつながりが豊かで、心安らかに幸福を実感できるまちを目指す。

子育て、教育、防災、福祉、まちづくりなど多様な面で、これまで以上に参加と協働を進め、セーフティーネット(安全網)をしっかりと守る「公助」と自律した市民による「自助」とともに、京都の誇る地域コミュニティの「共助」の力を一層高める取組を推進する。

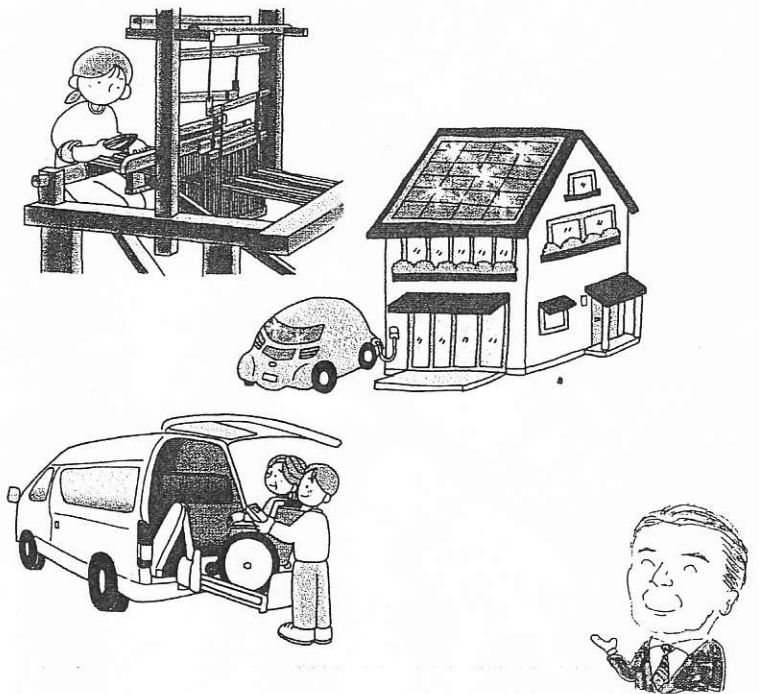


伝統と知恵を活かし、豊かな生活を支える

『環境と社会に貢献する産業が育つまち・京都』

私たち京都市民は、環境問題をはじめ現代社会が抱える課題から需要を掘り起こし、これまで培ってきた価値観や知恵などを活かして産業を育成することで地場産業や農林業を活性化し、雇用を創出するとともに課題解決に貢献する好循環を創り出すことにより、豊かな生活や社会を支える経済基盤が確立したまちを目指す。

低炭素社会を先導する産業、超高齢社会に対応した健康・福祉産業などを対象に、京都の強みであるものづくりの技術や知恵などが最大限発揮され、広く国内外から人財や資金などを呼び込む仕組みづくりなどを推進する。



市民が共に学び成長し、未来を担う若者が育つ

『学びのまち・京都』

私たち京都市民は、共に学び成長する喜びを分かち合いながら、京都、日本、世界の未来を担う若者を、みんなで育て合う、学びのまちを目指す。

「大学のまち・京都」の都市特性や文化、芸術、宗教、ものづくり（匠の技から先端技術まで）などほんものに数多く触れることができる強みを活かし、多様な学びの機会があり、社会全体で子どもを大切に育み、若者が希望を抱いて学び、地域の担い手が育ち、更には、経済、学術、文化芸術など多様な分野で国際的なリーダーを輩出する取組を推進する。

